

ユビキタス時代の最先端液晶ディスプレイの開発

「超高信頼性LCDの開発」

三菱電機株式会社 液晶事業統括部設計部 部長 谷内 滋

「LED光源バックライトの最新動向と最先端技術開発」

ミネベア株式会社 電子機器事業本部ライティングデバイス事業部製品技術部 次長 川島 悟之 他
情報電気電子工学科3年次および情報電気電子工専攻博士前期1年次対象
担当教員：久保田弘

実施概要

この特別講演は平成22年1月29日（金）に『ユビキタス時代の最先端液晶ディスプレイの開発』と題して、熊本大学工学部情報電気電子工学科・専攻の授業科目アナログ集積回路設計特論（井上教授）、多元信号処理工学特論（宇佐川教授）、電磁波回路工学特論（松島教授）、情報電気電子工学実験第二B（北須賀准教授）、半導体工学特論I,IIほか関連講義（久保田教授）、超兆集積プロゼミ（久保田教授）、インターンシップ第二（胡准教授、緒方准教授）の中の一つの講義に割り当てて行われた。受講対象者は情報電気電子工学科3-4年次生、大学院修士1年生である。受講者は学生約130名、外部から50名であった。

液晶ディスプレイは大型テレビを中心に、毎年20%以上（台数ベース）の成長を実現し、経済回復の原動力となっている一方、中小型ディスプレイもユビキタス次代必須のツールとして、ATMや制御機器等の産業用、カーナビゲーションなどの車載用、携帯電話やデジタルカメラなどの通信・民生用に応用は幅広く隅々まで広がってきた。シンポジウム前日にアップル社から発表されたi-Padをはじめ、今後は更に超高信頼性・高性能な製品の投入が期待されていることが紹介された。

本、半導体量産地域イノベーションのためのシンポジウムシリーズでは今回、液晶ディスプレイ開発に最先端に関わる技術者にお集まりいただき、「ユビキタス時代の最先端ディスプレイに向けて」と題して議論した。

講義の感想は全員から収集したが、実際の開発現場に触れることで、将来の進路決定に役立ったとの声が強かった。

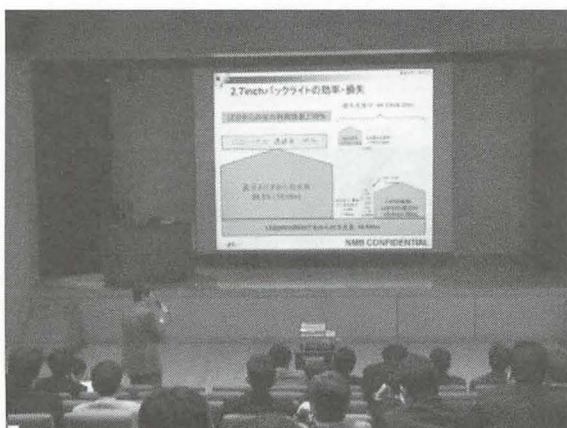


写真1. 質疑風景



写真2. パネルディスカッション